

議員名のあとの（ ）は、  
会派の名称です。  
質問文は、質問者本人が2000文字以内で執筆した原文をそのまま掲載し、答弁は内容を要約して掲載しています。

住民の命と生活を第一とする施策推進を求める

齋藤 成宏 議員（民主党）



町長 耐震改修促進計画を策定する予定

質問 東日本大震災により、町において明らかになった課題がいくつもある。国・都・近隣市とも力を合わせ、住民の命と生活を第一とする、さらなる施策推進が必要である。そこで町長に次の5点を伺う。  
問① 住民の安心感を高める町の仕組みづくり。  
町長 公共施設や住宅の耐震改修促進計画を策定する予定。  
問② 生活必需品、燃料などの供給体制の充実。  
町長 身近な商店を含めた協定の締結推進や非常時に井戸水が使用

できるよう手動ポンプ等の設置準備を開始。  
問③ 節電および省エネの啓発と推進。  
町長 広報やホームページを活用し、さらに広報車を巡回させるなど周知を図る。  
問④ 多様な通信連絡手段の確保。  
町長 防災無線を活用した自主防災組織との連携など、地域内の正確な情報伝達手段の確立に努める。  
問⑤ 公共交通の安定運行の要望と情報配信。  
町長 JRが箱根ヶ崎駅に新たな受電設備の設置工事を進めている。



「計画停電」で消灯した信号機(箱根ヶ崎地区)

中小企業支援の更なる拡充を

下野 義子 議員（公明党）



町長 商工会や金融機関と連携し、戦略を示す

質問 わが町には1500を超える中小企業があり、商工業では他に誇れる技術力や出荷額、販売額を有し、町の活性化にも貢献している。

しかし、技術の継承や独自の開発力、販路の拡大など課題も多い。さらに、今回の震災による資材不足や電力供給の不安などが、経営に大きな影を落としている。町は、

今こそ支援の手を広げるべきと考え、次の点を町長に伺う。  
問① 後継者づくり支援の実施。  
町長 今後、商工会や金融機関とも連携し、町の産業支援のあり方

学力向上策を問う

高水 永雄 議員（自民政心会）

教育長 実態を正確に把握し、指導・助言を強化



保護者に配布されている、家庭教育にかかわる冊子「げんきにはつらつ 瑞穂の子」

質問 国は、児童・生徒の学力低下傾向を危惧し、教育振興基本計画を平成20年に見直し、「教育立国」を実現する計画を決めた。町では新学習指導要領を平成23年度から小学校に、平成24年度より中学校に導入が予定されているが、現状では、学力向上が大幅に改善されると思えない。そこで下記の点を教育長に伺う。  
問① 新学習指導要領導入に対する期待と課題は。

教育長 基礎的知識や技能習得と思考力、判断力、表現力の育成バランスを図るとい趣旨を踏まえ、特に言語活動をとり入れた授業を行っている。23年度から統括指導主任を配置したが、各学校教育活動の実態を正確に把握し、指導・助言を強化していく。  
問② 就学前機関との連携をどのように考えているか。  
教育長 「げんきにはつらつ 瑞穂の子」を保育園、幼稚園の年長児保護者に配布。特別支援教育では、研修会へ参加の呼びかけや、教育相談員を派遣するなどをしている。



長岡の工業専用地域

町長 今後、商工会や金融機関とも連携し、町の産業支援のあり方

町長 行政自らがいい、原資を確保し、融資を実施することは、その規模から難しい。国や都にも実態を伝え支援を求めたい。